

平成22年第2回市議会定例会 所信表明

平成22年6月7日

【ご挨拶】

本日ここに、平成22年6月議会定例会の開会にあたり、議員各位並びに市民の皆様に市長就任のご挨拶を申し上げますとともに、所信の一端を述べさせていただきます。

私は、先の市長選挙におきまして、市民の皆様からのご支援とご理解をいただき、これからの4年間の合志市の舵取り役を担わせていただくことになりました。この場をお借りいたしまして改めて御礼申し上げます。

合志市は来年2月、合併5周年を迎えます。まず、初代市長としてご尽力いただきました前大住市長を始め、関係者の皆様方に対しまして、心から敬意を表しますとともに深く感謝申し上げます。

私は、今回の選挙期間中、多くの市民の皆様からのさまざまな声を聞いてまいりました。私への期待の大きさを強く感じておりますし、またその責任の重大さにも改めて身の引き締まる思いです。

私にとりまして、県議4期の経験はあるものの、市政運営は初めてのことです。これから先、私に対して厳しいご指摘やご意見もあろうかと思いますが、「合志市のため」「合志市民のため」という思いは同じですので、市民の皆様のご期待にお応えできるよう、議員の皆様のご協力をいただければと切にお願いいたします。

さて、私の市政運営に対する考えを述べたいと思います。

【1. 政治理念】

今回の選挙で、私の政治理念は、「市民との協働、議会との協調、国・県・他市町村との連携」と皆様方にお伝えしてきました。

（1）市民との「協働」

市民との「協働」にあたっては、先に条例化されました自治基本条例の具現化と、この条例の趣旨に沿った市民、議会、市執行機関の情報の共有を積極的に進め、市民の皆様と共にまちづくりを行う「協働」に力を注がなければならないと思っています。

（２）議会との「協調」

また、議会とは「協調」を図ることを第一義としていますが、今まで、議会議員として県政に携わってきた経験から「協調」という言葉を使います。「協調」とは双方が相手の意見を尊重し、安易に妥協することなく、お互いの話し合いで一致点を見だし、その一致点に向かって協力することを言います。妥協ではお互いにしこりが残りますが、協調できればお互いの意見の相違を認め合っているわけですから、後にしこりやわだかまりが残ることは少なくなるはずです。市執行部も議会も目指すべきものは一つ「市民の幸せ」だと考えますので、市政運営に今まで以上のご協力をお願いするところです。

（３）国・県・他市町村との連携

国・県・他市町村との連携ですが、市の面積の１割を超える国・県用地が占める合志市にとって、国・県との関わりをさらに強める必要があると考えます。市の将来はもちろんのこと、国・県の将来についても対等な立場でお互いに議論し、より良い将来像を描く動きを、連携して進めて行きたいと思っています。また、市民サービスを高めるためには、行政区域にとらわれることなく、市民の行動範囲、生活圈域をカバーする近隣市町村との連携がさらに必要です。

【２．合併後のまちづくりを考える】

市政運営を考える際、まず合併がなぜ進められたのか考える必要があります。国は、これまでに抱えてきた多額の負債をいかに減らすのかを考え、財政再建を主眼とした小さな政府を選択し、三位一体の改革を実行しました。この改革で、国庫補助負担金の廃止・縮減、税財源の移譲、地方交付税の一体的な見直しを行う一方、合併特例債を中心とした手厚い財政支援が行われる中、地方の自立と分権を旗印に「平成の大合併」が始まりました。

この、国の歩みに同調するように、両町が目指した合併、さらには合併ビジョンで描いたものは、どんなまちづくりなのか、本当に計画通りに進んでいるのかを、私たちは検証しながら、将来に向けた取り組みを進めなければなりません。

今の日本の人口形態と、合志市の人口形態から想像できることは何なのか。国・県はすでに人口減少の時代に入っています。今、合志市は人口が増え続けていますが、いつまでこの状態が可能なのでしょうか。また、人口が増えていることに対して整備をしなければならないことは、どの様なものなのでしょうか。真剣に考えなければなりません。

【3. 現状認識と課題】

(1) 働く場の確保

一つの問題は、働く場の確保です。現在、市にとっては市税が財政上の大きな財源です。それを支えてきた働く世代が一気に減少していくことを現実の問題として捉えることが必要です。今までの働く世代「労働力人口」の減少に対応し、高齢者の働く場所、生きがいを持ち日々を暮らす社会環境をいかに作っていくかが課題であると思います。

また、雇用の問題として、多くの人々の働く場所が合志市の外であることが危惧されます。また、買い物をする場所が少ないので多くの市民は市外で買い物をされており、地域経済を活性化させ、地域の振興を図る経済環境であるとは言いがたい状況です。住みやすさには多くの人々が満足感を抱いていますが、夜間の人口に比べ昼間の人口が非常に少ないという状況が、市内に働く場所がないという現状を顕著に表しています。このような現状を変えるためにも雇用の場を確保するための施策が急務であると考えます。

(2) 農業の振興と新たな産業の創出

一方、市の基幹産業である、農業の将来も決して明るいものではありません。天候に左右され市場価格も安定していません。商業も厳しい現状が続いております。企業誘致も思う様に進まない状況の中で、今こそ「農、商、工」連携、すなわち合併時に計画されたバイオ産業などの新たな産業

の創出、発展に本腰を入れなければならない時期だと考えています。

【4.「健康都市こうし」を目指す】

合志市は、日々生活するための生活環境が整い、自然にも恵まれ、農産物も素晴らしいところですが、他の地域との差や優位性をアピールするほどの特徴は持ち合わせていません。

そのために、私が考えたのがすべての政策に「健康」というキーワードを付け加えることでした。私は、選挙公約で、「健やかな笑顔がはじける素敵なまちを創ります。」と市民の皆様に約束しました。健やかに育つ子どもたち、働く意欲を持ち社会に貢献する大人たち、穏やかに暮らし地域に貢献するお年寄り、全ての世代が心身ともに、いきいきと暮らすことのできる「健康都市こうし」を創ることを公約し、この公約の実現に向け今後事業展開を図っていくところです。

(1)「健康ファクトリー構想」の実現

「健康都市こうし」を創るために、まずこれからの1期4年間、私は重要政策として「健康ファクトリー」構想の実現に取り組みます。

この構想は、まず国・県の研究機関と、その施設が立地しています国有地、県有地などの行政財産を含めた合志市の将来の土地利用の有り方について、広く議論のできる協議会を設置します。

また、その土地を含めた周辺の大規模な土地利用も検討していきたいと思っています。さらに、農産品の加工技術や保存技術の向上のため、企業の誘致や大手資本との協力体制に力を入れます。そして、公的研究機関、民間の研究機関、大学などとの協力のもとに、産学官連携を主軸とした、新しい安定した農業施策の展開を目指し、農業経営の安定化と雇用の確保に努めたいと考えています。

(2)将来を見据えた市の基盤整備

今、世の中は先行き不透明な時代であり、健康志向が強くなってきております。このような時代に求められる健康関連産業や研究機関を誘致するにしても、まずは、原点である合併時の「まちづくりビジョン」を現実のものにしなければなりません。スマートインター建設をはじめとした、市

のポテンシャルを高めるような各種事業の着手と早期完成に全力を挙げなければなりません。外から人や企業を誘導するまちづくりの基礎、しっかりとしたまちを創ることにより、「稼げる市」に変わります。今の合志市は、政令都市を目指す熊本市のベッドタウンとして人口は増えていますが、近い将来必ず市の人口も減少してきます。それまでに次の手立てを準備しなければならないのです。グローバルな経済社会の中で、将来の予測が大変難しい時代ですが、これから 10 年先、20 年先を見据えた取り組みを今から進めていく必要性はみなさんもお感じのことと思います。

【5. 政策を推進するための組織づくり】

(1) 組織づくりと機構改革

私の政策を推進する市の組織とするために来年 4 月には部局の見直しも含めた、大規模な機構改革を考えていますが、まず、私のマニフェストに書いています「まちづくり戦略室」を 7 月から新しく作り、政策を具現化するための準備を早急に進めていきます。

(2) 土地利用検討委員会の設置

新たな産業を興すための素地である土地の有効活用のため、市全体の都市計画を見直す「土地利用検討委員会」を立ち上げます。委員会は、市民・議会・国・県・関係市町・企業・有識者など、広く知恵を出し合える組織とし、将来の可能性を探っていき、将来像を描きます。

(3) 市民から頼られる職員づくり

肥大化する福祉・医療・介護・教育費、「子育て支援日本一」のスローガンに沿ったサービスの充実等に対し、税収等財源の確保見通しが立てづらくなっています。今こそ知恵を大いに働かせ、必要な事業、守らなければならない予算の確保のために、全職員が力を合わせなければならないと思っています。

日々の生活に直結した市民目線で行政の無駄を省き、市民のために何が必要なのか、広く公開した議論の中で行政運営を行う市民主導型のまちづくりを進めていくことを「行政の無駄を一掃します。」として公約しました。

これからの市政運営を進めるためには、私一人の力で成しえるものではありません。全職員が知恵を出し合い、協力しあいながら共に取り組んでいかなければなりません。また、職員には市民に最も近い存在として市民から頼られるよう、地域活動やボランティア活動に進んで参加をし、地域に溶け込むこともお願いしています。やる気を持ち、市民ニーズを的確に捉え、スピーディな対応ができる行政職員が集う組織でありたいと思っています。職員とコミュニケーションをとりながら信頼関係を築き、私が先頭に立って動いていきます。

【6. ローカルマニフェスト】

私は、マニフェストで40項目の事業と7項目の「夢」を示しています。

(1) マニフェストを進化させる

市民の皆様から、このマニフェストを評価していただき、新市長として市政を預かるわけですから、マニフェストに掲げた事業の実現に向け全力で取り組んでまいります。また、私が掲げた事業の「目的」にブレはありませんが、その目的を達成させるための手段として、他に良いものがあれば私のマニフェストを見直し、さらに効果的で効率的な事業を展開していきたいと思っています。

(2) マニフェストを予算化する

今回の補正予算の中にもマニフェスト項目の事業を予算化しています。百歳の祝い金についてですが、今まで100歳を超すごとに毎年1万円を支給していたものを廃止し、100歳の祝い金として誕生日に10万円を支給する制度を設けます。この事業は、100歳を迎えた方への祝い金ですが、その祝い金により家族、親戚、近所の方など多くの方で100歳を祝うようなお金にいただき、現在の合志市を築いて頂いた高齢者に感謝し、敬うような社会を作ることを目的としています。

また、公共交通の利用促進を図ることを目的に、定期券と入浴券がセットになった仮称「弁天パス」を計画しました。これも先ほどお話したとおり、すぐそこまで迫っている高齢社会の中で、さらに市民要望が強まるであろう公共交通を効率的にいかにか充実させていくかを考えた事業であります。高齢者の方々の外出を容易にすることは「健康」に直結し、生きがいに繋がると考えていま

す。

さらに予算は伴いませんが、休日窓口につきましても10月より日曜日の窓口を試行的に開設する予定で準備を進めています。このようなサービスは、他の自治体においても、すでに行われているようですが、市民目線で「求められる行政サービス」とは何なのか常に考え、積極的な取り組みを進めていくところです。

(3) マニフェストに掲げた「夢」

私のマニフェストの中に「夢やアイデアが語れるまちづくり」として、7つの項目を掲げています。全てのものが、まず「夢」を語ることから始まると考えています。「できる、できない」「前例がない」などの既成概念にとらわれずに、「夢」を語り合い、皆様方の協力をいただき、それを具現化するために、市民、議会の皆様と共に動き出すことが必要だと考えます。

そのために、職員にも「できません」ではなく、「がんばります」、「考えます」から始めていただきたいと考えています。

【7. 議会と共により良い市民サービスを】

市政は、二元代表制の自治制度の中で行われています。市長として執行部から政策提案を行っていきますので、是は是、非は非で議員の皆様と議論を交わしながら、市民の皆様方が納得し、満足できる市民サービス、まちづくりを進めていく所存です。

最後に私の政治の原点であります障がい者の方々の自立支援があります。いまだ全ての施策が不十分であるとの認識から積極的に障がい者の支援を考えていかなければならないと考えています。

また、ハンセン病問題、同和問題をはじめ、人権問題についても積極的な啓発活動に今後とも取り組んでまいります。

男女共同参画社会の着実な推進と併せて、ともに未来を語れるまちづくりに全力を挙げて取り組んでまいりたいと考えています。

【8. 終わりに】

以上のことを基本に、これからの市政運営を進めてまいります。

私のマニフェストを現在第2期基本計画に盛り込む作業をいたしておりますので、本格的に進めるのはこれからではございますが、できることからスピード感を持って取り組んでいきたいと思っております。また、取り組んだ状況については、議会の皆様方、市民の皆様方に、丁寧にわかりやすく情報公開を行ってまいります。

全ての世代が心身ともに、いきいきと暮らすことのできる「健康都市こうし」を創ることを目標に、私自らトップセールスを行い、リーダーシップを発揮し、強い意志と行動力を持ちながら、精一杯市政運営に努めていく覚悟です。

議員の皆様、市民の皆様方のご理解とご協力を賜りますよう、あらためてお願い申し上げまして、私の所信表明とさせていただきます。